

R7 後期日程 英語 出題意図と採点基準

I

- (1) 複数の関係節及び挿入句が含まれる複雑な文の構造を的確に把握したうえで、文脈に即して内容を適切に理解し、自然な日本語で訳されているかどうかを評価した。前半部分では、2行目の graduates を訳し忘れていたり、capable of が何について capable なのかを捉え損ねている解答や、後半部では it's all most people, ..., need their writing to be. の all most people の部分を「ほとんどすべての人々が、、、」と解釈している解答が散見された。
- (2) 下線部(2)の“Writing, then, is a moral act.”について、筆者が言わんとするところを本文の内容に沿って説明することを求める問題である。本段落を正確に理解し、なぜ“moral”とすることができるのかを明確に述べることが重要である。本段落3行目の“someone who may, in fact, not yet exist”の意味が正しく捉えられておらず、そのために筆者がここで述べている読み手について、正しく理解した上で説明がなされていない解答が目立った。また、4～5行目のセンテンスにある“your responsibility to that person”の“responsibility”を“response”と勘違いしたため、あるいは“meet their needs”という基本的な表現を誤解したために、的確な説明になっていない解答もみられた。
- (3) 下線部の文の構造を把握したうえで、適切に和訳することが求められる。特に“to convince you that I’m right about writing and the moral imagination”の部分が正しく理解されていることが文法的には重要なポイントである。その他の部分では、“would not go so far as to”の訳には誤答が目立ったが、文の後半(“I need to”以下の部分)は多くの答案で適切に和訳されていた。
- (4) 下線部の具体的な内容を適切に説明することを求める問題である。解答は下線部の後の挿入句に続く that 節の内容をまとめるものだが、全体的によくできており、多くの解答は文の構造を把握できていた。しかし、少数ではあるが、“audience”を「観客」「聞き手」などと訳出する例がみられた。この場合には、文脈から「読み手」と解釈すべきである。その他には“state”や“essay”の誤訳も散見された。文脈を理解したうえで、単語の意味を把握することが望ましい。
- (5) 教師がすべきことは、学生に読み手を意識して書かせる練習を、読み手が教師以外の場

合へと拡張することだという内容を理解し、下線部以下で述べられている具体例を的確に記述することが求められる。関係節や間接疑問文の構造が把握できていない答案や、“through the eyes of ～”や“the view of ～”という表現の理解ができていない答案が散見された。

II

設問を正しく理解し、自分の経験や見聞きしたことなどを顧みながら自分自身で考える思考力に基づいて、豊かな英語表現力を示していることを重視して評価した。その際、標準的な英語の文法を用いて書かれているか（文の構造、動詞の時制、数の一致、定冠詞と不定冠詞の使い分けなどが主なポイントである）、適切な語彙やイディオムを用いて表現しているか、文章構成が適切であるか、スペリングなどの誤りがないか、という点も評価している。